



令和6年度 全国学力・学習状況調査について

令和6年4月18日(木)、全国学力・学習状況調査が実施され、本校6年生児童が調査に取り組みました。このほど、文部科学省より調査結果が送付されましたので、その概要ならびに分析結果を以下に記載します。



I 国語科学力調査



(1) 全体的な傾向

平均正答数、平均正答率は、奈良県ならびに全国平均より高い値となりました。正答数分布については、正答数が10問から13問の層の割合が県・全国と比べて高く、それ以外の層が県・全国と同程度もしくは低いという傾向がみられました。

学習指導要領に示された内容に照らすと、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」「(2) 情報の扱い方に関する事項」「(3) 我が国の言語文化に関する事項」のいずれにおいても、奈良県平均や全国平均よりも高い正答率を示しました。とりわけ「B 書くこと」「C 読むこと」に関する事柄を問う問題については、その傾向が顕著にみられました。

無解答率については、解答を選択する問題の多くで、県・全国平均よりも若干高くなる傾向がみられましたが、どの問題についても、奈良県平均や全国平均との大きな開きはみられませんでした。一方、解答を記述する問題では、県・全国平均よりも低くなる一途中で投げ出したりあきらめたりせず、書く問題に取り組もうとしている一傾向がみられました。

(2) 解答状況からみた本校6年生児童の特長

- ・ 考えや近況などを交流し合う場において、話す目的や意図に応じ、テーマや内容を検討したり、相手を意識しながら整理したりする力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。
- ・ 考えや近況などを交流し合う場において、話し言葉と書き言葉の違いを理解したり、両方を適切に使い分けたりする力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。
- ・ 物語において、書かれていることに即しながら、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

(3) 解答状況からみた本校6年生児童の課題

- ・ 相手の知りたいことや関心を踏まえ、自分の考えが伝わるよう、具体物や資料を用いたり、表現を工夫したりしながら話す力の定着にやや課題のある傾向がみられました。上記「I - (2)」に示すように、話す目的や意図に応じ、テーマや内容を検討したり、相手を意識しながら整理したりする力は一定程度身に付いていることから、効果的な資料の活用や、自分の考えを分かりやすく伝える表現の工夫などに着目した学習を、より充実させていくことが必要と思われます。
- ・ 既習漢字を文中で正しく用いる力の定着にやや課題のある傾向がみられました。書く練習を地道に行う、表意文字としての用法理解を念頭に置き使い方を練習する

といった学習の場を、しっかりと確保していくことが必要と思われます。

- ・ 主述の関係を正しくとらえる力の定着にやや課題のある傾向がみられました。言語活動を豊かにし、多くの書き言葉や話し言葉にふれ、これらを積極的に用いる一方で、日本語の文法に親しむ学習を、継続的に行っていくことが必要と思われます。

2 算数科学力調査



(1) 全体的な傾向

平均正答数、平均正答率は、奈良県ならびに全国平均よりわずかに高い値となりました。正答数分布については、正答数が0問、4問、8問、10問、11問の層の割合が県・全国と比べて高く、それ以外の層が県・全国と同程度もしくは低いという傾向がみられました。

学習指導要領に示された領域に照らすと、「A 数と計算」「C 変化と関係」「D データの活用」では、奈良県平均や全国平均よりわずかに高い正答率を示しました。「B 図形」では、奈良県平均や全国平均より低い正答率を示しました。

無解答率については、16問中の11問で奈良県平均や全国平均よりも低い値を、1問で奈良県平均や全国平均とほぼ同じ値を、4問で奈良県平均や全国平均よりも高い値を示しました。無解答率が奈良県平均や全国平均よりも高い値を示した問題は、学習指導要領に示された領域に照らすと、「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」に関する事柄を問うものでした。なお、どの問題についても、奈良県平均や全国平均との無解答率の大きな開きはみられませんでした。

(2) 解答状況からみた本校6年生児童の特長

- ・ 「A 数と計算」の領域で、書かれている文章から必要な値を求めるための立式をする力を、概ね身に付けている傾向がみられました。
- ・ 「A 数と計算」の領域で、数量の関係を□を使った式で表す力を概ね身に付けている傾向がみられました。
- ・ 「A 数と計算」の領域で、除法における除数と商との関係を理解し、状況に応じてそのことを活用する力を、概ね身に付けている傾向がみられました。
- ・ 「D データの活用」の領域で、グラフから必要な値を読み取る力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。
- ・ 「D データの活用」の領域で、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って立式したり、得られた数値から基準値を超えるかどうかを判断したりする力を、概ね身に付けている傾向がみられました。

(3) 解答状況からみた本校6年生児童の課題

- ・ 「B 図形」の領域で、球や立方体の性質、立方体の体積の求め方についての理解に課題のある傾向がみられました。
- ・ 「C 変化と関係」の領域で、速さ、時間、道のりの関係についての理解に課題のある傾向がみられました。
- ・ 「D データの活用」の領域で、折れ線グラフから必要な数値を読み取ったり、読み取った数値をもとに、示された条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述した

りする力に、やや課題のある傾向がみられました。

上記のことから、図形とりわけ立体の性質や特徴についての理解の再確認及び、問われていることに応じてそれらを使いこなす練習をより積極的に行うこと、速さ、時間、道のりの関係についての理解を確実にし、様々な適用問題に取り組むこと、設定された条件や問われていることに応じてグラフを読み取る練習を行うことなどを通じて、児童の一層の学力向上を図っていくことが必要と思われます。

3 児童質問紙



(1) 回答状況からみた本校6年生児童の特長

- ・ 質問番号(9)「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和が、奈良県平均や全国平均よりも高い値を示しました。また、同じ質問に対する昨年度、一昨年度の回答割合よりも上昇していました。数年間で児童の自己肯定感が大きく向上しています。達成感を得ることのできる活動の工夫や、学校全体、職員、児童それぞれの受容的な雰囲気が、一定程度よい影響を与えているものと判断します。
- ・ 質問番号(18)「友達関係に満足していますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和が、かなり高い値を示しました。日々の学級運営、教科担任制により多くの目で児童を見守る仕組、生徒指導事象に関する情報の速やかな共有と組織的な対応などが、日々の確に積み重ねられ確実に機能しており、児童の集団生活に一定程度よい影響を与えているものと判断します。
- ・ 質問番号(38)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和が、高い値を示しました。問題解決学習場面における ICT 活用、多くの出前授業により多様な見方や考え方にふれること、学習成果物の相互評価や学習後の振り返りなど、様々な工夫や手立てが、児童の能動的な学習状況の維持に一定程度よい影響を与えているものと判断します。
- ・ 質問番号(39)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より高い値となりました。また、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和も、高い値を示しました。日々の学級運営の積み重ねによる成果が、着実に表れているものと考えます。
- ・ 質問番号(58)「理科の勉強は好きですか」、質問番号(59)「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」、質問番号(60)「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」のそれぞれにおいて、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より高い値を示しました。とりわけ、質

問番号(58)に対する「当てはまる」の回答割合に、その傾向が顕著にみられました。教科担任制を基盤に、実験や観察の機会を充実させたり、グループでの学習を通じて児童が相互に学びを支援し合う仕組を用いたり、学びの振り返りの機会を頻繁に設けたりしていることの成果が、回答結果に反映されているものと考えます。

(2) 回答状況からみた本校6年生児童の課題

- ・ 質問番号(12)「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より低く、「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より高い値となりました。思春期をむかえ、誰かの助けになることの難しさを感じていることが回答結果に反映されているとも考えられますが、親和的な学級・学年づくりや、見て見ぬふりをするようなことのない雰囲気の醸成に、今後も注力していく必要があると考えます。
- ・ 質問番号(13)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、「当てはまらない」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりもやや高い値を示しました。このことを看過せず、いじめが正当化される状況を決して生み出すことのないような学校運営を行っていく必要があると考えます。
- ・ 質問番号(36)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対し「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値を示しました。この調査の実施が4月中旬であったこと、昨年度よりも積極的に教科担任制を推進したこと、この時期は児童がまだ十分なじめていなかったことなどが原因の一つとも考えられますが、学習内容の確実な定着に向け、ていねいなフォローアップを今後も意識していく必要があると考えます。
- ・ 質問番号(41)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも以上低い値を示しました。自身の考えを臆することなく述べ合ったり、多様な考えを受け入れ合ったりできる場や雰囲気の醸成に努めるとともに、道徳的実践力の向上につながる指導を、今以上に充実させていく必要があると考えます。
- ・ 質問番号(50)「算数の勉強は好きですか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値となりました。質問番号(52)「算数の授業はよく分かりますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合も同様の値を示しました。分かりやすい授業づくりとともに、児童がより主体的に学べるような指導の工夫を一層推進していく必要があると考えます。



生駒市の結果と概要は、生駒市ホームページをご覧ください
<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000004287.html>

